

地域アクションプラン(幡多地域)進捗管理シート 総括表

資料5

No.	項目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町	任分	進捗状況	
									I 進捗度	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針
1	消費者から信頼される「施設園芸野菜の産地づくり」	●	●	●	●	●	●	A	○	・品目にもよるが、ほぼ計画通りの進捗で実行できている。今後も計画に従って事業を進めていく。
2	安全・安心農産物出荷システム構築による「露地野菜の産地づくり」	●	●	●	●	●	●	A	○	・幡多地域の露地野菜の振興について協議する場が遅ればせながらも、JA高知はたと協力して、作ることができた。今後、幡多地域の露地野菜の方向性等を十分協議して行く。
3	「果樹(ブタン・ユズ)の産地づくり」	●	●	●	●	●	●	A	○	・実施計画通りにほぼ達成出来た。残された課題として、ユズ産地化計画の推進や土佐文旦地域協議会の設立へ向けた協議を実施するなど、チームで第3四半期の実施計画に取り組む。
4	幡多地域の集落営農の推進	●	●	●	●	●	●	A	○	・既存組織については、2組織で共同防除を実施することとなり、管内の集落営農等組織の活動が広がった。 ・「こうち型集落営農」の各モデル集落営農組織とも今年度の活動計画を作成し、活動計画のお内容に沿って活動を開始している。 ・集落営農未設置集落への情報提供(集落座談会)を14地区で開催し、管内各集落での集落営農推進に向けた取り組みが広がっている。
5	有機農業普及・拡大事業		●					C	○	・9月には有機農産物の生産に向け、農業専門員を雇用するなど生産体制を整備するとともに、市民等を対象に有機農業や高付加価値型農業の研修会を実施。翌四半期も引き続き加工(高付加価値型農業)の認識を高める研修を行うとともに、県外の民間事業者と連携し、販路開拓に向けた取り組みを行うこととなっている。検討会等が立ち上げられれば参加し、支援する。
6	異業種からの農業参入への支援		●					B	○	・情報の収集並びに建設業者への説明会も開催し計画通りの執行ができた。 ・今後は、より詳細な情報収集を行い、異業種参入支援を行う。
7	木質ペレット対応型加温機導入		●					C	○	・情報の収集については、可能な範囲内で収集できた。第2回チーム会は若干遅れたが情報の共有化ができた。 ・今後の課題は先進地の研修計画と、先進地の試験データが提供される時期を把握して、遅れることなくデータの収集を行う。
8	安全で安心な施設野菜・花卉・菌茸栽培、畜産等の推進(新品目・新品種の導入など)						●	C	△	・チーム会等は不定期開催であること。JA・町の事業化判断のタタキ台となる「建設・運営コスト試算」上、経営が困難な状況などにより、判断が困難な状況。10月には、(次年度当初予算化の)一定の判断は必要と思われる。 ・一方で、実証圃設置・研修会開催等の堆肥利用促進活動等、需要側へのアプローチを開始した。
9	中山間地域の保全と活性化						●	A	○	・国の補助金交付決定が6月4日であったことから、計画に比し遅れ気味ではあるものの進捗状況はおおむね良好であるが、キーパーソンが一次産業従事者並びに高齢者であることから、行政主導型であることが否めない。 ・翌四半期には、事業進捗に関する地域と行政との関わり方について、行政職員内での意思統一を徹底する必要がある。
									△	・産業振興推進総合支援事業への9月事業申請を取り下げたため、他の財源を検討中だが、確保の見通しはなく、計画は当初通りには進んでいない。財源確保が難しい中で、地域の取り組み針が明らかになった段階で支援。
10	消費の変化に対応できるシュツコンカスミソウ産地の再生						●	C	○	・計画はほぼ達成。作付けが始まりだしたため、指導が遅れないように気をつける。
11	土佐はちきん地鶏生産流通戦略	●	●	●	●	●	●	B	○	・新規飼養希望者への現状説明及び「土佐はちきん地鶏生産者個票」の作成。高知県土佐はちきん地鶏振興協議会と協議し生産体制を調整する。
12	森の工場・間伐の推進	●	●	●	●	●	●	A	○	・既設「森の工場」の計画的な事業執行(利用間伐、作業道開設、機械導入)の指導、新規「森の工場」2ヶ所(四万十市道ヶ谷・味山、黒潮町伊与木・市野々川)の計画作成指導及び事業地を確保するために森林施業プランナーの育成指導を行った。翌四半期に向けて、引き続き事業執行指導を行う。
13	県産材の利用促進	●	●	●	●	●	●	A	△	・平成20年度の公共事業、公共施設への県産材利用状況及び平成21年度以降の施設整備(木材利用)計画の把握及び平成22年度以降の施設整備計画などを元に、市町村に木材利用を勧めた。 ・公共事業への木材利用の推進について幡多土木管内の県、市町村の公共事業担当者に説明を行った。8月に予定していた幡多地域県産材利用推進会議はまだ実施していない。 ・翌四半期は県産材利用推進にかかる情報収集を行うとともに市町村に木材利用を勧める。
14	林産バイオマスのカスケード型ゼロエミッションシステム構築		●					C	△	・林野庁補正予算に要望があった個々の事業者の木材乾燥機の整備計画を精査した後、バイオマスの利活用に関する取り組みを進めるかを再度判断する。現在のところは、保留とする。
15	「四万十の家」の建築と地域産ヒノキの販売の推進		●					A	△	・モデルハウスについては、ほぼ予定どおりの達成状況であるが、木材製品の品質表示やブランド化については、取り組みを開始できていない。現在の協議会メンバーは、建築が専門の者が多いため、木材の品質表示、ブランド化については、市とも協議し、別会議とすることも検討する。品質・ブランド化については、事業スケジュールも再検討する。
16	宿毛湾地域環境生態系保全活動事業(藻場再生、サンゴ保全)	●	●					A	○	・関係者の協議を踏まえ、事業の具体的な内容の決定及び実施体制が整った。今後は、地元活動組織の立ち上げや、国の交付金に関する事務的な手続きを進め、10月下旬からの本格的な事業着手に備える。

No.	項目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町	仕分	進捗状況		
									第2四半期		
									◎ : 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」	○ : 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」	
									△ : 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」	Ⅰ 進捗度	Ⅱ 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針
17	にぎわいづくりを中心とした地域活性化のための魚加工施設の整備	●						A	○		・交付決定の遅れにより当初の計画からは遅れているものの、改修工事等の発注や雇用の手続きを行った。今後、食品衛生面に考慮した施設の整備、許可、品質表示等について関係機関で協議し、実行していく必要がある。販促活動については、商品の製造をすくも湾漁協栄喜女性部に委託し、各病院の注文に応じた商品形態の開発・販売を実施した。
18	四万十川の資源を活かした環境ビジネスの創出			●				B	△		・市役所側のマンパワー不足もあり、高知大学との具体的な連携の進め方やそれに関連した事業展開が現段階では見えてこない。 ・関係者による協議会を早急に立ち上げ、上記の課題を具体的に進めていく必要がある。またアユ資源回復については、近年の天然アユ資源悪化の状況から、相当思いきった施策を講じないと回復は困難と考えられるので、来年度に向けて具体的な施策を関係者と協議していく
19	資源管理型・つくり育てる漁業の推進						●	A	○		②藻場保全活動については、国の事務処理遅延のため、予定より遅れているものの、過去に実施した下地があるため今のところ特段の問題はない。 ④アカウニの販路については、徳島市中央卸売市場での評価が高かったため、順調。その他、地元での加工販売を着実に進める。 ⑥人工魚礁の整備については、佐賀沿岸域に中層魚礁を整備する方向で検討中。
20	直七の搾汁・商品加工をする施設整備	●						A	△		・事業計画の調整などの遅れから実施計画で予定していた事業申請が困難となった。今後は事業計画の見直し、事業スケジュールの見直しを行い、なるべく早く事業着手できるよう支援していく。
21	環境に配慮した街づくりのための堆肥化工場の整備	●						C	△		・事業計画の調整などにより、実施計画が遅れている。引き続き情報収集を中心にかかわっていく。
22	土佐清水市地域再生計画(大岐地区の開発計画)	●						A	○		・施設整備は特に遅れもなく進行中。(株)土佐清水元気プロジェクトの商品開発と更なる販売拡大が必要。今後は商談会や見本市などの開催情報を元気プロジェクトに伝えるなど、情報提供を中心に支援していく。
23	地域資源を統合したプログラム構築によるしみずの元気再生事業	●						A	○		・備品等の購入や、施設整備は遅れたが概ね進行している。認証土産物づくりに土佐清水駐在の地域支援企画員と協力して支援していく。
24	地元農産物を使った商品開発事業			●				B	○		・JAはたに空き農地等の委託業務を発注。農産物の供給体制の整備に向けた準備を進めている。調査結果が出るまでは、新たな動きはない見込みだが、新たな動きがあれば必要に応じ、支援する。
25	食育プラザ整備事業			●				A	△		・ふるさと雇用再生特別交付金の事業計画の根拠づけ等、必要に応じて支援する。
26	拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)				●			A	○		・全体にお蔵が出ている中で、実績もでてきている。今後は商品開発等、スケジュールの見直しを行って本年度の事業を完了できるよう、大月町の地域支援企画員とともに関わりを継続していく。
27	「黒潮印」の商品開発						●	A	△		・黒潮町議会において予算が凍結されたことから、事業が遅延した。凍結解除となったことから、新たな組織体制が整備された特産協と連携し、試作品の開発など事業の進捗が図られるよう支援する。
28	カツオ文化のまちづくり事業						●	A	○		・実施主体の努力の甲斐あり、無事審査会を通過し、交付決定された。 ・翌四半期は、計画の進捗状況を随時調査し、事業主体について事業目的のブレがないよう働きかける。
29	企業誘致活動の推進						●	B	◎		・情報通信基盤の整備は計画どおりの実績。当初計画で9月に計画していたテレワーカーの養成は7月に実施。 ・企業誘致施設となる公共遊休施設の改修は、産業振興推進総合支援事業費補助金(H22.3申請予定)ではなく、地域活性化経済危機対策臨時交付金を活用することに変更し、改修のための予算案は7月町議会で議決するなど計画を前倒して実施。翌四半期は、事業の進捗状況の把握に努める。
30	「子ども農山漁村交流プロジェクト」受入事業の推進	●	●	●	●	●	●	A	○		・子どもプロジェクトによる教育旅行は、事故等もなくスムーズに受入が実施されている。また、体験プログラム開発については、教育委員会のアドバイスも受けながら、既存プログラムの見直しを図ることで今後検討していくこととした。 ・第3四半期以降は、であい博アドバイザーの藤澤安良氏の活用を図りながら、インストラクターのレベルアップなど受入体制の強化に取り組んでいく。

No.	項目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町	仕分	進捗状況	
									第2四半期	
									◎ : 「実施計画を超過して進捗した (達成できた)」	
									○ : 「実施計画どおり進捗した (達成できた)」	
									△ : 「実施計画どおり進捗しなかった (達成できなかった)」	
									I 進捗度	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針
31	幡多広域における潜在型・体験型観光の推進	●	●	●	●	●	●	B	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進地(長崎県まつら党交流公社)視察結果を踏まえて、一般社団法人設立を目指して取組みを進めることで、協議会臨時委員会でほぼ合意は得られた。今後、事業計画案の作成及び必要な財源確保に向けた取組みを行う。</li> <li>あわせて、コーディネート組織の強化については、土佐・龍馬であい博アドバイザーの藤澤安良氏のアドバイスを受けながら進めていく。</li> </ul>
									○	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業着手に遅れがあったものもあったが、今年度事業についての取組みを各事業実施主体で進めている。</li> <li>今後、来年度から実施する事業について、事業内容の詳細を詰めていく必要がある。</li> </ul>
32	NPO竜串観光振興会を中心とした竜串観光事業	●						B	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の事業は順調にこなしている。会に自主財源も乏しく、活動自体も観光事業の下支えの意味合いが強い。今後も引き続き、土佐清水市駐在の地域支援企画員と連携をとりながら、取り組み自体に参加するなど、会の支援を続ける。</li> </ul>
33	四万十の秋・冬の味覚満喫体験		●					A	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント内容の協議、決定、広報</li> <li>翌四半期には各種イベント実施、ふりかえり、次シーズンへの誘客活動を行う。</li> </ul>
34	竜ヶ浜自然体験及び環境教育型施設整備			●				B	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>大月町として事業の具体化に向けて動いていない状況。翌四半期も状況を把握していく。</li> </ul>
35	グリーンツーリズム(異業種間連携事業の推進)					●		C	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊休公共施設改修事業→改修費用2,250万円を国に要望</li> <li>翌四半期には遊休公共施設改修事業について、改修後施設の活用の方向性を関係者で協議(体験型観光への活用であるとか製品の展示場であるとか。)</li> </ul>
36	ブルーツーリズムの推進					●		C	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒潮一番館インストラクター研修実施、みなとオアシス臨港地区指定に向け県港湾課、都市計画課と協議</li> <li>翌四半期にはみなとオアシスの整備に関してシーカヤック艇庫の整備を検討</li> </ul>
37	砂浜美術館構想の推進					●		C	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>入野松原の再生→高知大学との協働事業によるボランティア整備</li> <li>広域観光受入れのための総合的な取組→情報基盤、本年度工事分入札、砂浜トレーニングセミナー開催</li> <li>翌四半期には入野松原の再生→松原内でキルト展を開催、自然との共生にふれ、考えてもらう。広域観光受入れのための総合的な取組→砂浜トレーニング体験セミナー第2回目の開催</li> </ul>